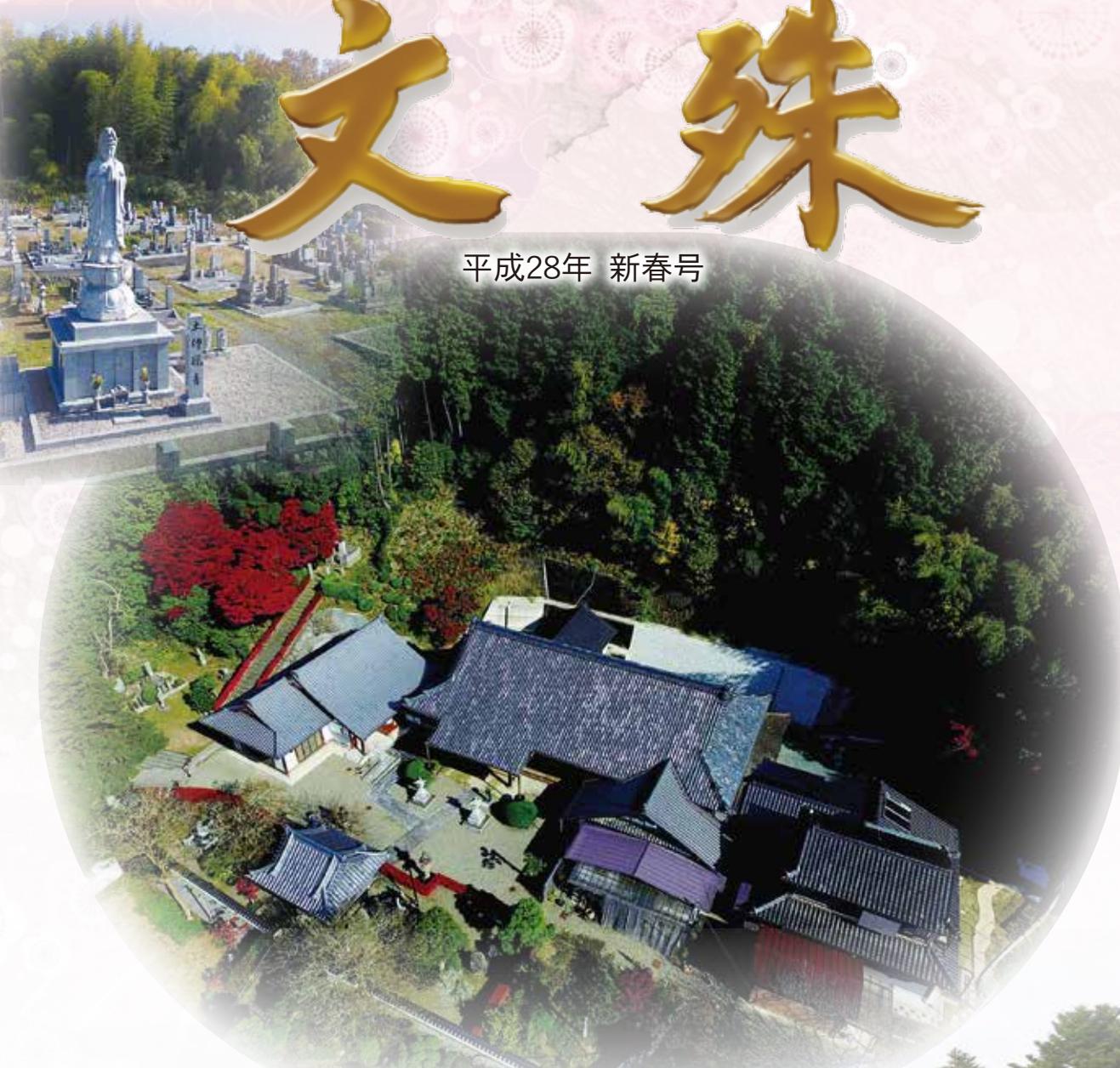


圓覚寺 護持会会報

文 殊

平成28年 新春号



平成29年
第6号

平成29年度の主な行持予定

- 1月 1日(日) ^{しゅうしょうえ}修証会(元朝互礼会) 10時・11時の2回
- 12日(休) ^{だいはんにゃ}大般若法要(大般若経六百卷の転読祈願法要)
- 2月 15日(休) ^{はな}涅槃会(お釈迦様ご命日)
- 3月 18日 (日時調整中) 圓覚寺彼岸会(彼岸入り)
- 25日 (予定) 護持会決算会・予算会
- 4月 日 西国三十三ヶ所巡拝
- 4月 29日(土) ^{わがくに}和敬会花まつり(当番:圓覚寺)
- (釈尊降誕会)
- 5月 24(休)~25日(休) 梅花流全国奉詠大会(福井、永平寺)
- 7月 1日(土) 仏教文化大講演会(厚生会館)
- 日 子供禅の集い(永平寺)
- 7月末~8月初旬 遠方棚経
- 7月 30日 (日時調整中) 圓覚寺境内内作務(役員・会員他)
- 8月 1日(火) 土師観音盆供養・夜施餓鬼(施食会速夜)
- 6日 (予定) 土師墓地、檀信徒お墓掃除(一軒に一人)
- 6日(日) 8:15 原爆追悼平和の鐘
- 8月 8日(火) ^{ぼんね}孟蘭盆大施食会(並ニ、初盆大施食会)
- 9日(休) 綾部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面棚経
- 10日(休) 前田方面(早朝)・市内方面棚経
- 11日(金) 土師宮町区・土師新町東区棚経
- 12日(土) 土師新町南区棚経
- 13日(日) 土師町区棚経
- 14日(月) 孟蘭盆(お盆参り、午前中本堂開放)
- 16日(火) 丹波大文字送り火(法要:厚生会館)
- 8月 20日 (日時調整中) 地藏盆(土師新町南、地藏堂)
- 8月 23日 (日時調整中) 地藏盆参り(遠方)
- 9月 20日 (日時調整中) 圓覚寺彼岸会(彼岸入り)
- 9月 24日 (日時調整中) 彼岸参り(遠方)
- 11月 日 秋の西国三十三ヶ所巡拝
- 19日 (日時調整中) 土師地区出身戦没者追悼慰霊祭
- 12月 8日(金) 釈尊成道会、未修年忌供養等併修
- 13日(休) 大すす払い
- 31日(日) 除夜の鐘・歳末調経
- 毎月 1日午前6時半 読経会(朝のお勤め会)
- 毎月 第1・3金曜日 梅花講詠讃歌(日時変)
- 毎月 第1・3木曜日 梅花講詠讃歌(新講員、日時変)
- 毎月 第2・4火曜日 午前10時 寿会写経会(日時変)

圓覚寺護持会役員紹介

| 任期 | 平成二十八年四月 | 平成三十一年三月まで |
|---------|----------|------------|
| 総代(敬称略) | 伊東 高志 | 土師町 |
| 代表総代 | 伊東 高志 | 土師町 |
| 総務担当 | 芦田 孝文 | 土師町 |
| 墓地管理者 | 芦田 忠義 | 土師新町南 |
| 会計担当 | 芦田 幸雄 | 土師新町南 |
| 会計監査 | 芦田 充也 | 土師新町南 |
| 会計監査 | 芦田 洋司 | 土師新町南 |

| 運営委員 | 第一班 | 第二班 | 第三班 | 第四班 | 第五班 | 第六班 | 第七班 | 第八班 | 第九班 | 第十班 | 第十一班 | 第十二班 | 第十三班 | 第十四班 | 第十五班 | 第十六班 | 第十七班 |
|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 伊東 かね子 | 芦田 敏彦 | 芦田 誠一 | 高橋 信司 | 木下 真理子 | 足立 勝成 | 芦田 太一 | 芦田 俊朗 | 芦田 義則 | 佐藤 清仁 | 伊藤 洋司 | 伊藤 昇 | 芦田 幸代 | 芦田 均 | 芦田 充也 | 芦田 洋司 | 芦田 田 | 芦田 田 |
| 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 | 土師新町南 |

平成二十九年年度年回表

| | |
|-------|----------------|
| 一周忌 | 平成二十八年没(二〇二六年) |
| 三回忌 | 平成二十七年没(二〇二五年) |
| 七回忌 | 平成二十三年没(二〇一九年) |
| 十三回忌 | 平成十七年没(二〇一三年) |
| 十七回忌 | 平成十三年没(二〇〇九年) |
| 二十五回忌 | 平成五年没(一九九三年) |
| 三十三回忌 | 昭和六十年没(一九八五年) |
| 五十回忌 | 昭和四十三年没(一九六八年) |
| 百回忌 | 大正七年没(一九一八年) |

【編集後記】

昨年は、四月からの役員改選で総代四名中、初めての総代が三名と言う構成で何もわからぬまま、暗中模索の中でスタート致しました。不備も多々あったとは思いますが、住職・運営委員・檀信徒の皆様のお力添えを戴き進めて来ているところです。

五月には圓覚寺徒弟の宗寛師が二十六年二月から二年三月の長い修業を終え帰山され、今後教師資格取得に邁進されることをお祈り致します。六月には永澤寺研修会で、講師永平寺副監院九子孝法老師生い立ちなど意義ある法話を聞き、八月には暑い中お盆を前に、檀信徒の皆様による墓地清掃・孟蘭盆大施食会、また九月に入ると教区四ヶ寺での永平寺団参があり、当寺からの参加者数は二十七名と多くのご参加を頂き、参拝・道中の車中・ホテルでのひと時・上高地での観光とそれぞれ有意義に過ごさせて頂きました。今後も計画されます団参には、お知り合いの方など誘いあって多くの参拝者を期待致します。また、秋の彼岸法要は予定していましたが、台風接近の恐れのため、やむなく中止となりました。関係者のみでの法要で済ませて頂きました。

こんなアクシデントもありましたが、他の諸行事も大過なく、どうにかここまでやって来れたのも、関係して頂いた皆様のお陰と感謝しています。今後も更に精進し総代の大役を全うしたいと思っております。今後とも皆様方の更なるお力添えをよろしくお願い致します。

総代総務担当 芦田 孝文

発行所
圓覚寺護持会会報編集部
住所/京都府福知山市宇土師一七七
電話/〇七七三(二七)四四四七

賀 春

新年明けましておめでとうございます。檀信徒の皆様におかれましては良き初春をお迎えの事とお慶び申し上げます。

旧年中は寺門護持にひとかたならぬご尽力賜り誠に有り難うございました。

相承（そうじょう）



曹洞宗では、昨年は瑩山禅師のお弟子俄山禅師の六五〇回大遠忌、そして八年後の瑩山禅師七〇〇回大遠忌までを「相承」というテーマで報恩の行持が続いています。相承とは一器の水を一器の水に移すが如くに一滴の水も漏らさず伝えるという意味であります。一山を預かる住職としては、過去の和尚様並びにお檀家の皆様が綿綿と紡いで下さって続いてきた円覚寺四百年の歴史を踏襲し、次の四百年も檀信徒のこころの拠り所となり得るようバトンを繋ぐ役

住職 成田大航

割を勤めるという事であります。今風の言葉でいえば、企業価値を高めるという意識も大事かなと密かに考えております。



昭和40年頃の花まつり行列の様子

昨年度末、伊東康雄総代様が急逝されるという悲しい出来事がありました。一般会計と裏山土砂崩れ復旧事業の会計であり、監査会のまさに直前でありましたが、残された資料は全てまとめられており、決算に何一つ支障をきたす事無く全ての会計決算を終える事が出来ました。緻密で真面目なご性格が最後まで現れて、誠に残念至極な

謹賀新年

新年明けましておめでとうございます。



檀信徒の皆様にはご家族お揃いで新年をお迎えになられたことと謹んでお喜び申し上げます。日頃は円覚寺護持会の運営には大変なご理解、ご支援、協力を賜っておりますこと、

厚く御礼申し上げます。

護持会では三年毎の役員改選に伴い、昨年の四月より代表総代としての重責を担うことになりました。何分力不足ではございますが、檀信徒、運営委員、各担当総代の皆さまのご支援を賜りながら責務を勤めて参りたいと思っております。ご指導、ご鞭撻の程よろしく御願ひ申し上げます。

昨年は、六年ぶりに十三教区の本山研修団参の当番寺に当たり、円覚寺からは二十七名が参加して本山永平寺での研修と高地への旅を楽しみました。

新年度に当たって……

代表総代 伊東高志

またお寺さんにおいては、住職の徒弟・宗寛さんが永平寺での二年三ヶ月余りの修行を終えて昨年五月に送行（そうあん）され、円覚寺に帰って来られました。資格をとるため、嗣法（しほう）もすでに済み、瑞世（ずいせ）、といつて両本山の一夜住職を勤める事）の修行を残すだけになりました。また長女の麻伊佳さんが結婚され、次女の唯さんも福知山での就職が決まり、お子さん達揃って大変恵まれた年であったように、檀家にとりまして大変喜ばしいこととお祝い申し上げたいと思えます。

昨今、護持会としての課題が多々ありますが、墓地の環境整備事業の一環として、無縁墓地の改葬、水道場の増設、墓地の駐車場の整備等を念頭に適切な時期を見て進めてまいりたいと思っております。

また、今年の四月二十九日は「和敬会（わきょうかい）花まつり」があり、円覚寺が当番寺に当たっております。地域の皆様、檀家の皆様、役員全員の御協力を得て賑やかなおまつりにしたいと思っております。

事でありました。尊いご一生に敬意と感謝を申し上げます。

今年度の改選にて、ここ数年の災害復旧事業を統括して下さいました芦田正勝・佐藤倅志総代が退任され、新たに選出の芦田孝文・芦田幸雄・芦田忠義総代が既に様々な行持にてお世話様になつております。難しい時代の護持会運営に檀信徒の皆様のご協力をお願い致したく存じます。大難小難あつたサル年が去り、鳥羽ばたく佳き年になりますよう念じてご挨拶と致します。 合掌



新旧の総代さん交代式

順次ご案内やお稚児さんの募集もしてまいりますので、大勢の参加を御願ひ致します。又この機会に以前から懸案となつておりました本堂の堂内トイレの改修等も行いたいと思っております。

後になりましたが、檀信徒の皆様のご健勝とご多幸を祈念し年頭のご挨拶とさせていただきます。



宗寛さん帰山式（5月4日）

本山永平寺の団体参拝に参加して

総代会計 芦田幸雄

今年の京都十三教区主催の本山参拝は久昌寺様、正眼寺様、頼光寺様、円覚寺の四ヶ寺が当番寺で、当山からは二十七名が参加しました。

続いて発生した台風と秋雨前線が心配されましたが、まずまずの天候の中、ほぼ定刻に福知山を出発して一路本山永平寺に向かいます。

車中で平成二十年一月に満百六歳で亡くなられた前永平寺住職宮崎奕保禅師のDVDを見ました。平成十八年にNHKで放映されたドキュメンタリーで、作家の立松和平さんのインタビューを入れた永平寺での生活を紹介されたものでした。ビデオを見終わる頃に、永平寺に到着しました。

山門前で下車してまずは各寺院毎に記念写真を撮った後、中に入りました。靴を脱いで綺麗に磨きこまれた廊下に立っただけで身が引き締まる思いがしました。

初めに渡邊布教部長の話がありました。御自身の経歴や永平寺の紹介をされ、当日が丁度中秋の名月でしたので、毎年自室から杉木立を経て名月を見る際に何時も側に道元禅師が寄り添って下さっている感じがするというお話しをされました。正にこの事が永平寺で有ること、禅であることでご開山以来、自然の法に従い有るがまま

に生活することが脈々と受け継がれている証であること。修行僧のことを「雲水」と云うのは、自然の中で雲や水が湧き流れ行くが如く淡々とした生活を行く中で、体から禅を会得するので雲水と名付けられたそうです。宮崎禅師のDVDでは、当時百四歳というお体でありながら率先して座禅をされ、自らが永平寺であるとお考えで、自然の法に従い淡々と日常を過ごされる姿に感動しました。

話の後は雲水さんの案内で逐次説明を受けながらの見学をさせて頂きました。質素な食事に皆さん驚かれたのではないのでしょうか。拝観が終わり、門前の昼食場所にて各寺院毎に分かれて昼食を頂きました。

そして、お土産を買い求めた後にバスに乗り込んで新平湯温泉に向かいました。飛騨街道から神通川に沿って険しい谷を分け入り、ほぼ定刻にホテル焼岳に到着しました。宴会までの時間をゆつくりと温泉で過ごし、宴会の大広間は囲炉裏を囲む雰囲気、久昌寺住職さんの挨拶で宴会が始まり、次々にカラオケも出て予定の時間はすぐに過ぎました。

翌朝は割合遅い出発で、安房トンネルを抜けて三十分余りで上高地へと着きました。棒川に沿って左後ろに焼岳、大正四年の

焼岳の噴火で棒川が堰きとめられて出来た大正池に映る穂高の山並みを観ながらバスターミナルにてバスを降りました。そこからはバスガイドさんの案内で河童橋まで歩いて行った後は共に散策を楽しみました。気温は低くも寒くも無く山間特有のガスも無く北アルプスの山々が綺麗に観られたのは幸運でした。

赤かぶの里で昼食を頂き、名産の赤かぶの漬物をお土産に帰路につきました。天候にも恵まれ道中気分が悪くなる人も無く予定通りの時間に全ての行程を楽しくこなすことができましたのは、企画から当日のお世話まで御苦労を尽くさ

れました役員、BS観光の方々のおかげと、温かく送り出してくださいました家族の気持ちがあればこそと感謝、感謝。次の機会にも皆さん元気で、今回都合で参加出来なかった方々も揃ってご参加をお願いします。



感謝合掌

大般若経六百巻修復事業について



要が営まれたことが記されております。以来二百二十一年を経過し、多少の修復をしたとはいえ虫食い・破損が目立つようになつてまいりました。今般、お施主様を得て全巻の修復を行うこととなりました。明年の大般若会には間に合うように進めておりますので、檀信徒総意の寺物として未永く護持して頂きませうとご案内申し上げます。



修繕前



修繕後

毎年一月十二日、円覚寺では六百巻の大般若経巻を転読（開いて読むこと）し、国土安穩、檀信徒家門隆昌並びにご参詣の善男善女の身体健全を祈るご祈禱法要を致しております。寺歴に依れば、寛政七年二月二十八日、初めて大般若経六百巻を招来し、大般若法

花まつり開催のお知らせとお稚児さん募集について

4月29日



本年は地区花まつりの当番寺院に当たります。

正式なご案内は後刻いたしますが、お稚児さんの募集も広く致しますので、お子さん・お孫さんの記念に是非ご参加下さい。

※独りで歩行が出来る年齢から小学三年生くらいまでのお子様を対象です。

円覚寺行事点描

夏の山内草刈り作務

夏の一番暑い時の山刈り、役員様には大変ご苦労様になります。



山門下防火用水撤去



山門下の防火用水の撤去工事が認められ、埋め立てが完了しました。今後いろいろな用途で活用が出来るかと期待しています。

土師戦没者慰霊祭



戦没者慰霊祭は七十年間自治会主催でお世話になっていましたが、本年度より土師遺族会が主体となつて営まれることになりました。

十六羅漢像

土師の造形作家、故青田謙さんが残された小さな「十六羅漢像」をモチーフに親交のあった人形作家、向山恭子様

が作品として完成し寄贈頂きました。



(テーマより抜粋)「彫刻家として期待の星だった日展作家、青田氏は、数年前、天空に向かって旅立ってしまった、今となつては遺作となつてしまった小さな十六羅漢像：(中略)：私は、お父様の無念さと、お母様の悲しみを全身に受け止め、無心に羅漢さまの台座を作らせていただいた」

平成二十八年三月十五日
人形作家 向山恭子

明けましておめでとびございます 伊東 かね子

昨年、九月半ばに護持会の旅行で、永平寺・上高地へ一泊旅行へ行つて来ました。



焼岳から見上げた立山連峰は「勇壮な日本の屋根」と言われるだけに素晴らしい景色で、楽しい二日間を過ごさせて頂きました。

(秋天の 立山連峰 合掌す)

こうした旅行やお寺のあらゆる行事に参加させて頂けるのも、御詠歌を続けているおかげと思っております。

御詠歌に入講する前は、般若心経すらまともにも唱えることが出来ない私でした。でも、いつも静かに見守っていて下さる和

尚様、立派になられた宗寛様、真剣にやさしく御詠歌をご指導下さる奥様、そして、頼もしい先輩方や明るくやさしい後輩たちに助けられ、どうにかこうにか唱える事が出来ております。

無心に唱えた後は、とてもすがすがしい気持ちになり、体も軽くなるように感じていきます。体力・気力のあらゆる限り、楽しみながら続けさせて頂けておりますので、これからもよろしくお願ひします。



7.7 中丹奉詠大会 (筆者中央)

【追伸】私達、梅花講一同、たくさんの方の入講をお待ちしています。お気軽にいらして下さいね。

摩尼車 設置しました



開眼式にて

摩尼とは宝珠の事。古来より經典の文字が読めない人でも、經典の文字が書かれたこの摩尼車を回す事によって、お経を読んだと同じ功德が得られるといわれています。

特に般若心経の最後の偈文「ギャーテーギャーテー・ハラーギャーディーソウワカー」は訳す事の出来ない秘呪であり、功德のあるこの一文だけでも唱えながら是非廻してみてください。



(施主 芦田章夫殿)

輪転機 寄贈して頂きました

(施主：伊東高志殿)

二十年以上稼働してくれた輪転機がついに動かなくなりしましたが、お施主様によって新しい輪転機(リソグラフ)を購入することが出来ました。

大量部数の印刷などありましたらどうぞお使い下さい。

(用紙持ち込みで原紙代五百円負担下さい)

